

3月1日(日)~7日(土) 春の火災予防運動

令和7年中の知多中部管内(半田市、阿久比町、武豊町、東浦町)では、94件の火災が発生しました。火災による負傷者は6名、死者は0名です。昨年と比較して火災の件数は13件増加しました。少しの油断から火災は発生します。火気の取扱い等には、十分注意してください。



令和7年出火原因

- ◇1位 火入れ(※)
 - ◇2位 たき火
 - ◇3位 放火
- ※農作業で、枯草や雑木などを焼くこと。

令和7年火災種別件数

種別	件数	(前年比)
建物火災	35件	(-7件)
車両火災	5件	(-1件)
その他の火災	54件	(+21件)
合計	94件	(+13件)



たき火や火入れが原因で発生した火災の多くは、風の影響で大きく燃え広がったり、周囲の枯れ草などに火の粉が飛んだりしたことで発生しています。空気が乾燥して風が強いときは、屋外で火を使うことをやめましょう。

住宅用火災警報器の点検を実施しましょう

住宅用火災警報器は、火災をいち早く知らせしてくれる機器です。正常に作動するように、日頃の維持管理が大切です。

- ◇定期的に点検ボタン等で、メッセージや警報音が鳴るかの作動確認をしましょう。
鳴らない場合は、電池がきちんとセットされているかを確認し、それでも鳴らない場合は電池を交換してください。
- ◇機器には交換時期があります。おおむね10年経った機器は、本体を交換しましょう。

☎ 知多中部広域事務組合消防本部 予防課 ☎21-1491

ごん吉くんレポート ~南吉よもやま話~

第82回 うぐいす笛を吹けば

3月22日は、新美南吉の命日です。半田市では詩「貝殻」にちなんで「貝殻忌」と命名し、毎年南吉を偲んでいます。この詩に登場する貝殻とは、貝殻笛のこと。南吉はほかにも、草笛、竹笛、麦笛、うぐいす笛などさまざまな笛を作品のなかで描いています。

なかでも春と言えうぐいす笛です。うぐいすは古くから「春告鳥」と呼ばれ、竹で作るうぐいす笛は、うまく吹くと本物の鳥のような音色をきかせてくれるのです。

幼年童話「ウグイスブエヲ フケバ」には、この笛が登場します。子どもたちがうぐいす笛を吹くのですが、お母さんを亡くした子どもだけとても悲しい音色をしているので、子どもを亡くしたうぐいすが近くの枝にやってきて啼くというお話です。

もう一つ、『良寛物語 手毬と鉢の子』の「手毬」にも登場します。江戸時代のお坊さんの伝記物語で、主人公の良寛さんが子どもたちと手毬で遊んでいると、時期外れのうぐいすが啼いています。実はお母さんのいない女の子が仲間はずれにされて、一人でうぐいす笛を吹いていたのでした。良寛さんは、自分の手毬とうぐいす笛を交換してやります。

どちらも南吉がうぐいす笛に、さびしさや悲しさ、愛おしさを感じていたことを思わせるお話です。3月21日(土)には、うぐいす笛作りのワークショップを行いますので、ぜひ南吉が愛した音色を再現してみましょう。



▲貝殻忌



貝殻笛とうぐいす笛